

4-10

演 題：真の身体拘束廃止へのあくなき挑戦

副 題：利用者からの一言「10年間、我慢したんだよ」

身体拘束廃止

利用者の尊厳

種 別・施設名：特別養護老人ホーム 江戸川光照苑

職種・発表者： 介護係長 前田 直樹	共同研究者
所在地・東京都江戸川区北小岩 5-7-2	共同研究者
TEL：03-5668-0051	E-mail： Shibata@e-kousyoen.or.jp
FAX：03-5668-0052	URL： http://www.e-kousyoen.or.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	当苑は平成8年7月に江戸川区では6番目の特別養護老人ホームとして開設しました。定員は60名、ショートステイ10名、江戸川区の北部、京成小岩駅のほど近くに位置し、下町の人情溢れる温かさをそのままに、家庭的で心温まる介護サービスを提供しています。
----------------------------	---

<p style="text-align: center;">＜取り組んだ課題＞</p> <p>平成12年の介護保険施行で身体拘束を省令により禁止しているが、平成20年7月4日時点において当苑の身体拘束の状況は10名（16.7%）であった。省令で禁止した11項に当てはめると13種類、さらにそれ以外にも玄関出入口のロック、フロアのEVの閉鎖、ペランダ出入口の封鎖など、利用者にとって行動が制限される行為が多く存在した。</p> <p>省令で定めた11項目さえ無くせば、大手を振って「身体拘束ゼロ」と言えるのか…そこで4月に施設長が代ったことを機に苑内研修を始め、ケアプランの見直し、マニュアル策定等を行い、本来、人としての人權、尊厳を守ることを目的に廃止に取り組んだ結果、わずか1か月未満の8月1日現在で3名になり、それ以外にもフロアのEVの閉鎖のみとなった。</p> <p>本来、真に身体拘束を廃止するためには、施設長はじめ、職員の意識を改善しなければ、身体拘束ゼロにはならない。身体拘束が従来よりなぜ行われてきたのか、なぜ1か月未満で3名にまで減少したのか、この先さらに身体拘束廃止を進め、「ゼロ」を目指すために何が必要なのかを明らかにするため、職員調査（アンケート）を行い、その結果から今後の身体拘束廃止の在り方を考察する。</p>	<p style="text-align: center;">＜活動の成果と評価＞</p> <ol style="list-style-type: none">属性 回収率 95.6% 有効回答 男：20名 女 24名 職域：介護 25名、看護 4名、他 15名 役職：監督職 14名、一般職 29名、その他 1名身体拘束に関する質問<ol style="list-style-type: none">①身体拘束がゼロにならなかった理由<ul style="list-style-type: none">・職員が足りなかった 28名（63.6%）・安全対策として不可欠だった 25名（56.8%）・職員全体の意識が足りなかった 17名（38.6%）②身体拘束廃止が進んだ理由<ul style="list-style-type: none">・施設長のリーダーシップ 30名（68.2%）・施設全体で取り組んだから 24名（54.5%）・苑内研修があったから 17名（38.6%）③さらに今後の廃止に重要なことは<ul style="list-style-type: none">・利用者の尊厳を大切にす意識の向上 34名（77.3%）・職員の確保 27名（61.4%）・介護の工夫 23名（52.3%）考察 廃止が進んだ理由においては「人員確保によって」と答えた職員は0名で、かつ人員が満たされていた時にも身体拘束が行われていた事実からして、人員が潤沢であれば身体拘束がゼロになるとは言えない。理念、リーダーシップ、業務の標準化、人材育成、リスクマネジメントなど、熟成された組織マネジメントが、利用者の尊厳や人權を守る上で必要な事がわかる。
<p style="text-align: center;">＜具体的な取り組み（調査の方法）＞</p> <p>アンケートの期間は平成20年8月1日～15日、対象は介護、看護はじめ、特別養護老人ホームに関わる全職員とした。調査方法は質問紙法で、回収は個人無記名でリスクマネジメント委員会が回収にあたった。質問紙の内容、構成は属性と身体拘束に関する質問で①身体拘束がゼロにならなかった理由、②身体拘束廃止が進んだ理由、③今後さらなる廃止に向けて重要なこと、そして自由記載欄を設けた。なおこの研究は廃止の技術的な報告ではなく、あくまで職員の意識変革に焦点をあてたものである。また倫理的配慮に関しては、調査の目的とプライバシーの遵守を依頼時に口頭で約束している。</p>	<p style="text-align: center;">＜まとめ＞</p> <p>しかしながら、人員確保が全く無関係とはいえず、早急な改善が必要なことは言うまでもない。</p> <p>最後に玄関出入口のロックを解除したことで、ご利用者に感想を聞くと「よかったね。これで職員に気兼ねなく、外の空気が吸える。10年も我慢したんだよ」と笑顔が輝いて見えた。この笑顔を曇らせることは介護のプロとして二度とできない。</p>